

平成30年度使用

小学校特別の教科道徳用  
教科書の選定に必要な資料

教科用図書益田採択地区協議会

各発行者記号は、次のとおりである。

記号	発行者名	発行者略称
A	東京書籍株式会社	東 書
B	学校図書販売株式会社	学 図
C	教育出版株式会社	教 出
D	光村図書出版株式会社	光 村
E	日本文教出版株式会社	日 文
F	株式会社光文書院	光 文
G	株式会社学研教育みらい	学 研
H	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき

# 選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. (1)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 道徳の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫	6. その他	(感性をはぐくむ要素を含む)
A	<p>○学習指導要領に示された項目について、児童の発達段階に応じた適切な内容になっている。</p> <p>○文字や挿絵のバランスが良く、読みやすい。</p>	<p>○学習指導要領の4つの視点、A自分自身、B人との関わり、C集団や社会との関わり、D生命や自然、崇高なものとの関わりが分かりやすく構成されている。</p> <p>(1年p. 118)</p> <p>○全学年に「いじめのない世界へ」というとびらページがあり、いじめに関する2つの教材を取り上げることで、いじめ問題に対して考えさせる内容になっている。</p> <p>(4年p. 41～49)</p>	<p>○問題解決的な内容を取り上げ、児童が主体的に考えられるように工夫されている。特に、3～6年高なものとの関わりが分りやすく構成されている。</p> <p>(5年p. 25～29、6年p. 75～79)</p>	<p>○一つ一つの読み物資料の終わりに、考えるときのポイントが載せてあるが、「あなたはどうか」「友達と話し合ってみましょう」など、自分のこととして考えることで道徳的実践力を養うように工夫されている。</p> <p>(4年p. 53、99、147)</p>	<p>○学年段階や行事・体験の時期などを考慮して、教材が配置されている。</p> <p>(2年p. 16～18、6年p. 110～114)</p> <p>○他教科との関連は、3～6では「つながる・広がる」というページに写真入りで分かりやすく紹介されている。</p> <p>(6年p. 39、174)</p> <p>○各学年の付録ページに、自然、伝統文化、郷土の発展に尽くした人など、地域への学習とつながり広げたりできるような資料が載せてある。</p> <p>(5年p. 171～176)</p>	<p>○読み物資料とは別に、「出会う・ふれあう」の項目が全学年2回あり、コミュニケーションを図りながら人間関係を築いたり、個々の良さを伸ばしたりできる活動が設定されている。</p> <p>(3年p. 16～17、p. 84～85)</p>	<p>○全体的にシンプルで、文字や挿絵などが読みやすい構成になっている。</p> <p>○シンプルなものの中にも、考え、議論するテーマの提案、読み物以外の道徳的な活動、「いじめ」「情報モラル」などに焦点を当てた内容など、多様な道徳の授業展開をするために多くの工夫や仕掛けが見られる。</p> <p>○自分のこととして考えたり、友達と関わりながら考えたりするなど、道徳的実践力を養うための手がかりやポイントが明記してある。</p>
B	<p>○学習指導要領の内容項目の4つの視点をまんべんなく取り上げ、45分授業に適した文量に設定されている。</p> <p>○教科書が「読みもの」と「活動」の二部構成となっている。「活動」は内容項目ごとにまとまっており、「読みもの」に対応した発問や発展的なコラム、自分の生活での振り返りなどからなり、教材文の読み取りにとどまらない活動を促すような工夫がなされている。</p>	<p>○学年ごとに重点項目を位置づけ、重点項目では複数の時数を設け、多面的に道徳的価値に迫る工夫をしている。</p> <p>○防災・安全教育やキャリア教育、情報モラルなどの現代的な課題を全学年に配当している。</p> <p>○いじめ問題について全学年で複数時数配当し、多様な内容項目からいじめという言葉を使わずにいじめ問題を扱い、いじめ問題に向き合う心をはぐくめるよう配慮している。</p>	<p>○「読みもの」「活動」とともに、内容項目に関連したコラムを複数配置し、道徳的価値の多様な学びにつながる配慮がなされている。</p> <p>○4つの視点を示すイラストがジグソーパズルで描かれており、自分を中心にどのようなかわりに関するテーマかが視覚的にとらえやすくなっている。</p> <p>○「活動」では、発問に合わせた場面絵のイラストが載せられており、発問をとらえやすくなる工夫がなされている。</p>	<p>○「活動」では学びの形態をマークで示し、多様な学習ができるよう工夫している。</p> <p>○「みつめよう」の発問では、自らを振り返ることで自分の生き方や考え方見つめられるようにしている。(2年p. 42、5年p. 18)</p> <p>○「やってみよう」の活動では、異なる価値観について相反する立場で意見をぶつけ合ったり、ロールプレイを通して礼儀について考えたりするなど、道徳的行為に関する体験的な活動を取り入れている。(2年p. 112、6年p. 136)</p>	<p>○受け継がれる命についてみつめる等、「活動」の発問には、他教科との横断的な関わりを持つものが数多く盛り込まれている。(2年p. 22)</p> <p>○「活動」の巻末に示されている資料には、話し方・聞き方・話し合いの仕方・人物になって考える方法が示されるなど、国語科の教科内容や、言語活動の基礎・基本の能力につながる学習となっている。</p>	<p>○「活動」の巻末には、話し合いや学びを深めるための手引きが載っており、学習の参考となる。</p> <p>○「活動」は内容項目ごとの配列となっているため、書いた記録を基に内容項目ごとに心の変容や学びの深まりを振り返ることができるよう工夫されている。</p> <p>○「活動」には「読みもの」に沿った多様な発問が示されており、問題解決的な学習のきっかけづくりになっている。</p>	<p>○教科書を「読みもの」と「活動」に分けている。「活動」を効果的に活用することで内容項目ごとに自分の考えを掘り下げて見つめることができる。</p> <p>○「活動」には複数の教材の発問やイラストが同一ページ(見開き)に掲載されているため、集中することが苦手な学習者が授業とは関係のない文や絵に気をとられてしまう可能性がある。</p> <p>○「活動」には、中心発問や後段の発問、道徳的価値に迫る効果的な活動が示されており、ねらいに沿った学習活動の展開を容易にしている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. (2)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 道徳の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫	6. その他	
C	<p>○内容項目の4つの視点をバランス良く配置している。</p> <p>○学年の発達段階に応じた内容・程度の教材を取り入れ、話し合い活動の時間を確保できる分量になっている。</p> <p>○各学年に「スキル」と題して体験的な学びができるような題材を取り入れている。</p> <p>○低学年では「A主として自分自身に関すること」のうち「節度、節制」に関する教材文が多く、高学年では「希望と勇気、努力と強い意志」の内容に関する題材を多く取り入れている。</p>	<p>○低学年から体験的な学びを意図した題材より、読み物を主とした題材を多く配置し、問題解決的な学習の構成を意図している。</p> <p>○児童の身近な課題、文学作品、時事的な題材がバランス良く選択されている。</p> <p>○題材の扉に、本題材を扱うねらいが分かりやすい表現で明示されている。(「～について考えてみましょう」)</p>	<p>○題材の最後に「学びの手引」と題して、学習の学びの流れが明示してあり、見通しを持って学習に向かうことができる。</p> <p>○近年のノーベル賞作家や2020年東京オリンピック(6年p44、6年p58)を題材としたり、自分たちと同年の子どもの実際の絵や詞を紹介する(4年p124)など児童が興味を持つことができる内容にしている。</p> <p>○題材の導入部分で教科書に自分の思いを書き込める枠を設け、自分の思いを明確にして題材に関わることができるよう工夫されている。(4年では3題材)</p>	<p>○各学年とも「やってみよう」と題し、道徳的価値を体験をとおして実感できるよう、スキルトレーニングの題材を設けている。</p> <p>○低・中学年の「スキル」の題材では読み物資料の中に自分の思いを書き込めるようになっていく。</p> <p>○各学年とも「学びの手引」のなかに「ジャンプ」と題しより深い課題を提示している項目が4～7つ配置されている。</p>	<p>○各学年の発達段階に応じて「情報」にかかわる題材を設定し、情報化社会の中でモラルを大切に育てる態度の育成を目指している。</p> <p>○2年生の巻末に見開きページを配置し、「みにつけよう れいぎ・マナー」と題し、「公共の場」「職員室で」の正しい振る舞い方を、また「行事の中の国旗と国歌」で「国旗や国歌を大切にすることの表し方」を紹介している。</p>	<p>○各学年とも「道徳開き」のページを冒頭に配置し、年間の道徳学習の見通しを持たせている。</p> <p>○巻末には「学習の振り返り」のページを配置し、一年間の振り返りと次年度への見通しを持たせている。</p>	<p>○低学年の補充教材では、見開きページいっぱい写真とそれに関する詞を紹介し、感性をはぐくむ場を設けている(1年p.112、2年p.124)</p> <p>○表紙のイラストが学年の発達段階に応じて成長の見られる題材となっており、また明るく爽やかな印象が持たれる。(6年卒業式後のイラスト、1年桜と校庭で笑顔で走り回っているイラスト)</p> <p>○定番と言われる題材、現代の問題に即した題材、問題解決的な学習に即した題材がバランス良く配置されている。</p>
D	<p>○等身大の児童が登場する等発達段階に考慮された内容構成となっている。</p> <p>○吹き出しに記入させることで考えられる教材の工夫がされている。</p> <p>○終末を提示せずに考えさせる工夫がされている。(1年p.50、2年p.93、3年p.75、4年p.23、5年p.114、6年p.88)</p> <p>○題材中の登場人物に自分自身を投影させて考える内容の設定がされている。(1年p.91、77、2年p.13、3年p.41、4年p.98、5年p.23)</p>	<p>○各学年35教材(1年生34教材)が配されており、1時間1教材で構成されている。</p> <p>○2年生以上の巻頭に「道徳の時間」という授業開きの内容が掲載され、「道徳の時間」が、話し合ったり演じたり、読んだり書いたりする活動を通して、主体的に考える時間であることが示されている。</p> <p>○1年間を4つのまとまりで構成し、内容項目間の関連に考慮されている。</p> <p>○4つのまとまりの最後に「学びの記録」が設定されており、児童自身が学びの軌跡を見ることが出来る。</p>	<p>○漫画形式の教材を各学年に配している。</p> <p>○一枚絵から考える教材を配している。(1年p.4、2年p.88、3年p.140、5年p.81)</p> <p>○世界に一つだけの花、アンパンマンの歌詞から考える工夫がなされている。(4年p.6、5年p.181)</p> <p>○絵本(写真絵本)を基にした教材が設定されている。(3年p.26、5年p.60)</p> <p>○児童にとって親しみのあるスポーツ選手、パラリンピック選手を取り上げている。</p>	<p>○現代的な課題として「情報モラル」「いじめ問題」「環境」「国際理解」「福祉・共生」の5つのテーマを取り上げ、題材と関連付けてコラムを掲載し、道徳の時間以外の活用も考えられる。(1・2年生は発達段階を考慮し、「情報問題」「いじめ問題」に特化されている。)</p>	<p>○道徳の実効性が求められる中、2年生以上に「考えよう」を設け、「他教理解」「福祉・共生」の5つのテーマで学習する内容「特別活動」「関連する内容の図書の紹介」「日常生活への意識付け」等を通して、計画的・発展的な学習になるよう配慮されている。</p> <p>○巻末に各題材と「他教科・領域との関わり」が一覧で示されている。</p>	<p>○1年生の入学当初の発達段階を考慮し、文字の少ない1枚絵での資料提示で構成されている。</p> <p>○各学年の配当漢字(1年生はカタカナ)に振り仮名が付されている。</p> <p>○1年生は文節分かち書き、2年生では3文節程度に分分かち書きとしてあり、読みをつまづきを軽減する配慮がなされている。</p>	<p>○従来からある読み物教材に加え、登場人物が等身大の児童である読み物教材、伝記等で知られる先人、現在活躍する人物の子供の頃の葛藤を扱ったもの、また、写真を活用し、一枚絵の提示や漫画形式の教材等、多様な教材が配されており工夫がされている。「情報モラル」「いじめ問題」等の現代的な課題も教材とコラムをつなげるように配されており、児童が主体的に考えられる教材が選定されている。</p> <p>○登場人物への自我関与、問題解決的な学習、体験的な学習(他教科・領域との関連も含めた)も織り交ぜ、バランスが取れている。</p>

# 選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. (3)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 道徳の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫	6. その他	
E	<p>○内容項目の4つの視点をバランス良く配置している。</p> <p>○高学年はやや長文の題材が多く、自己の生き方に対して深く考えることのできる題材が選ばれている。</p> <p>○どの学年も「C主として集団や社会との関わりに関すること」の題材を多く取り入れている。</p> <p>○題材によっては「学習の手引」が見開きで紹介されており、学習の流れが挿絵や写真入で説明があり、書き込みができるような枠を設けている。</p>	<p>○題材の多くがオープンエンドになっており、子どもたちが自然と自分の考えに思いを巡らせたたり、話し合い活動に入れたいりすることができるような構成になっている。</p> <p>○読み物資料だけでなく、漫画風なもの(6年)、紙芝居風のもの(1年)手紙のみのもの(3年)など多岐に渡っている。</p>	<p>○題名の後に、教科書のマスコットが本題材のポイントとなる内容を語りかけるよう表現することで、題材の世界に自然と入り込めるような支援をしている。</p> <p>○各学年とも5〜7題程度「心のベンチ」と題して、題材に関わりのある内容が豊富な資料と共に見開き1ページで構成されており、児童の興味・関心を高めたり、考えを深めたりすることができるような配置がなされている。</p>	<p>○全ての題材の終わりに「考えてみよう」「見つめよう 生かそう」という見出しで題材にかかわる発問がなされている。恣意的な内容にせず、児童が自分の思いを自由に考えることができるよう工夫されている。</p> <p>○目次では4つの視点が色分けで表現されているが、「いじめ」に関わる題材についてはすべての学年で「いじめをなくすために」と明示してある。</p>	<p>○「情報モラル」(2年〜6年)「安全なくらし」(1年〜6年)「継続可能な社会」(5年〜6年)をテーマにしたものは目次にテーマを明示し、教師も児童もすぐに分かるような配慮がなされている。また、これらのテーマに沿った題材を複数の内容項目に沿って選定している。</p>	<p>○巻頭に全ての学年で「道徳のとびら」と題して道徳の学習はどのような学びなのか「4つの視点と内容項目」がイラストで明示している。</p> <p>○全学年で「道徳ノート」が付属している。ノートは一つの題材について見開き1ページで「自分の考え」「友達への考え」「話し合い活動後の自分の考え」が書き込めるような紙面構成になっている。</p>	<p>○定番と言われる題材よりもむしろ、新しい題材が多く加わっている。問題解決的な学習をすすめることを意識した題材が多い。</p> <p>○高学年では実際の資料が、低学年では様々なタッチの挿絵が挿入されており、児童の興味・関心を高めることを意識した教科書作りがなされている。</p>
F	<p>○吹き出しの言葉を考えたり、記入したりすることで考えられる教材の工夫。</p> <p>○「国際理解」を考える教材が配されている。</p> <p>○日本の伝統的な物、行事や料理、世界遺産の紹介。</p> <p>○東日本大震災に関する教材が掲載されている。(3年p.164、4年p.70、5年p.148、6年p.148)</p>	<p>○各学年35教材(1年生34教材)が配されており、1時間1教材で構成されている。付録として5つ程度の教材を配している。</p> <p>○巻頭に「道徳の学習の時間が始まります」という授業開きの内容が掲載され、4つの観点と道徳の時間の流れ、体験的な学習(道徳の実効性)について書かれている。</p> <p>○各学年の重点項目が目次に分かりやすく提示されている。</p> <p>○巻末に「学びの足あと」があり、道徳の時間の1年間の学びの軌跡が目に見えるように工夫されている。</p>	<p>○漫画形式の教材を各学年配している。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックの教材が掲載されている。国際理解も併せて考える内容となっている。(2年p.56、4年p.118、6年p.48)</p> <p>○絵本を基にした教材が設定されている。(3年p.10、p.44)</p> <p>○児童にとって親しみのあるスポーツ選手や漫画のキャラクターが教材として設定されている。</p>	<p>○現代的な課題として「情報モラル」を各学年で配している。(1年p.46、90、2年p.60、62、3年p.60、4年p.52、64、5年p.62、102、106、6年p.62、88)</p>	<p>○道徳の実効性を考慮した教材が配されている。(1年p.34ありがとうの木、2年p.42「きらきら」み一つけた、2年p.62ピーマンマンとよふかし大まおう、3年p.14サイコロドゥーイング、4年p.22言葉のキャッチボール、p.84心の体温計、5年p.22いいねコール、p.92知ってるつもりビンゴゲーム、6年p.22「あっ、どうしよう」「ナイスリターン」)</p>	<p>○1年生入学当初の教材でも文字が多く書かれている。幼児教育である程度ひらがなが読める児童が増えている傾向が表れている。</p> <p>○3つ目の教材から数字の漢字表記があり、振り仮名が降られている。1年生のカタカナにも振り仮名が振られている。</p> <p>○1、2年生は文節分かち書きがされており、読みやすさを軽減する配慮がなされている。手のひらを太陽にの歌詞は文節で分かち書きとはなっていない。</p>	<p>○「情報モラル」と2020年東京オリンピック・パラリンピック、東日本大震災についての教材が多く配置されており、児童の身近にある課題であったり、現在の日本が直面する課題であったり、数多く取り上げられている。</p> <p>○挿絵等のキャラクターが、読み物教材ごとにタッチを変え、絵自体も現代的なタッチで描かれている。横書き、縦書き、フォント、紙面の明るさ(配色)、漫画形式の教材等、現代的な物となっている。</p>

## 選 定 に 必 要 な 資 料

特別の教科 道徳 No. (4)

記号	選定に必要な資料の観点						総括 (感性をはぐくむ要素を含む)
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 道徳の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫	6. その他	
G	<p>○学習指導要領の内容項目の4つの視点をまんべんなく取り上げ、45分授業に適した文量に設定されている。</p> <p>○4つの学び方(深めよう、つなげよう、やってみよう、広げよう)を設けることで多面的に考えられるようにしている。</p> <p>○問題が解決されないまま終わったり、道徳的に好ましくない結末だったり、問題提起で終わったりするなど、結末に工夫を凝らした教材が多い。(3年p. 32、51、86)</p>	<p>○全学年とも、「生命の尊さ」の教材を3点連続で配置し、生命尊重に重点を置いている。</p> <p>○低学年では「主として自分自身に関すること」、中学年では「主として集団や社会との関わりに関すること」、高学年では「主として生命や自然、崇高な物との関わりに関すること」を多めに配当するなど、学年の発達段階に応じて適切な教材数を配当している。</p> <p>○情報モラルに関する教材を発達段階に応じて各学年で取り上げている。(3年p. 128)</p>	<p>○教材文のページに主題名を明記しないことで、特定の価値観にとらわれずに考えを深めることができる。</p> <p>○場面絵や漫画を取り入れることで、学習者が主体的に問いを考える工夫がなされている。(1年p. 42、4年p. 108)</p> <p>○全学年ともA4版サイズで、挿絵や資料を豊富に入れ、興味・関心を持たせている。</p> <p>○学習の道筋を示したページを設け、分かりやすく学び方を示している。</p>	<p>○「深めよう」では道徳的価値について多面的に考えたり、自分の生き方について深く考えたりできるよう(3年p. 47、5年p. 65)、「つなげよう」では自己の生き方につなげて考えるよう(6年p. 108、2年p. 79)、「広げよう」では地球規模や外国に視野を広げるよう(3年p. 115、1年p. 68)、「やってみよう」では道徳的行為に関する体験的な学習ができるよう(1年p. 11)、「それぞれ適切な配慮がなされている。</p> <p>○以上の配慮が、教材への自我関与や体験的学習に結び付いている。</p>	<p>○異性との関わり、病気の予防、学級会の在り方、水産業、動物の飼育など、全ての教材ごとに他の教科等との関連を示しており、教科書の巻末に一覧表にして示されている。(1年p. 38、3年p. 141、6年p. 30、78、88)</p>	<p>○教科書に直接考えたことを書き込めるようになっており、あとで見返せるようになっている。</p> <p>○巻頭に自分を見つめるページが、巻末に一年間の学びを振り返るページがあり、年間の成長を感じることができる。</p> <p>○家族から聞いたことを書き入れたり地域への感謝に目を向けたりするなど家庭や地域との連携も視野に入れている。(3年p. 81、5年p. 139)</p> <p>○「他者の意見」を基に道徳的価値について多面的・多角的に考える工夫がなされている。(1年p. 108)</p>	<p>○「4つの学び方」等の工夫により、教材の登場人物への自我関与をしやすくし、道徳的価値を自分とのかかわりの中でとらえる工夫がなされている。また、道徳的行為に関する体験的な学習も全学年で配置されており、問題解決的な学習のための適切な配慮がなされた実践的な教科書であると言える。</p> <p>○道徳的価値について多面的・多角的に考える工夫や、学び方を示したページ、結末部の工夫、自ら問いを考える教材の示し方など、問題解決的な学習に結び付く多くの配慮や工夫がなされており、質の高い学習活動の実現が期待できる。</p>
H	<p>○読み物資料中心の本冊と、別冊「道徳ノート」の2冊構成になっている。</p> <p>○読み物は、学習指導要領に示された項目について、児童の発達段階に応じた適切な内容になっている。</p>	<p>○本冊の読み物資料と、別冊の道徳ノートは、読み物の順番につながっているわけではなく、道徳ノートの方は、内容項目ごとに分かれているので、2冊の構成の仕方が異なっている。(本冊3年p. 70~72、別冊3年p. 32~33)</p> <p>○学習指導要領の4つの視点、A自分自身、B人との関わり、C集団や社会との関わり、D生命や自然、崇高なものとの関わりが分かりやすく構成されている。(5年 巻頭、巻末)</p>	<p>○本冊の読み物資料の終わりには、「考えよう話し合おう」の欄があり、何について考えたら良いのかという「学習の道筋」が明確に示してあるので、1人でも主体的な読みができる構成になっている。(3年p. 63、6年p. 61)</p>	<p>○道徳ノートには、自分を見つめて自分の考えを書く欄がしっかりと作られているため、道徳的思考力が養われる内容になっている。(5年道徳ノートp. 28、30、36)</p>	<p>○学年段階や行事・体験活動の時期などを考慮して、教材が配置されている。(5年p. 142~143)</p> <p>○他教科との関わりは明記されていない。</p>	<p>○読み物資料の終わりに「学習を広げる」の欄があり、本の紹介、活動、ことわざなどが掲載されていて、読み物からさらに学習を広げる工夫がなされている。(3年p. 59、p. 69、95)</p> <p>○読み物の終わりの「学習を広げる」の欄に、読み物を理解しやすい説明が記載されている。(4年p. 75)</p>	<p>○読み物資料には、学習の道筋が明記してあるため、何について考えれば良いのかが一目瞭然なため、始めから焦点化されるよう工夫してある。</p> <p>○道徳ノートは、児童が考えて記述する欄や、学習の記録の欄が多いので、上手く活用すると評価に使いやすい。反面、読み物資料とのリンクが分かりづらいため、ノートを活用しにくいことも考えられる。</p>